



ななくに峠

〔教育目標〕 教養と品格を身に付け、社会に貢献する人間の育成

八王子市立七国中学校
令和8年7月8日
七国中だより
7月号—1

命の大切さを共に考える

6月29日(月)「命の大切さを共に考える日」全校朝礼 校長講話より

みなさん おはようございます。

今日は「命の大切さを共に考える日」です。みなさんと「命の大切さ」について一緒に考えてみたいと思います。

今日のこの日、必ずみなさんに問いかける言葉があります。みなさんにとって「命」とはどのようなものでしょうか。そう聞かれたら何と答えますか。また後程問いかけますので、思い浮かべておいてください。

「今何してるの? 生きてる」 この短い会話は、ある男性が鼻に酸素チューブをつけ、ベッドに横たわる婚約者の女性への問いかけと女性からの返事です。男性が撮影したであろう映像とこの会話が19年経っても私の脳裏から離れないでいます。今から19年ほど前、24歳で末期がんと闘う女性、長島千恵さんのドキュメンタリー番組として放送されていた一コマです。同年、2007年7月に「余命1か月の花嫁」というタイトルで特番が組まれ放送されました。長島千恵さんが亡くなる1年5か月ほど前の2006年1月に、乳がんが診断され抗がん剤治療、左乳房切除手術、放射線治療と闘病生活を送っていましたが、2007年2月にシステムエンジニアとして社会復帰を果たしました。2007年3月に胸の痛みで襲われ受診。左胸膜、肺、骨にがんが転移していることが判明し、「余命1か月」と宣告されました。長島千恵さんの夢。それはウェディングドレスを着ること。千恵さんの夢を叶えるために、彼女の恋人と友人たちが模擬結婚式を計画し、2007年4月に結婚式を挙げることができました。挙式の間は酸素チューブを外して車椅子に乗らずに自分で歩いていたそうです。結婚式の直後に容態が急変し、挙式から1か月後の5月に亡くなりました。病魔に侵される前、いつもと変わらぬ日々を過ごしていたときの長島千恵さんは、どんな未来予想図を描いていたのでしょうか。「今何してるの? 生きてる」1日、1時間、1分を必死に生きようとしている彼女の姿、どんなに生きたかったことか。生きることの大切さを私たちに問いかけているような気がしました。後に映画化され上映、舞台でも上演されました。

さて、命とはどのようなものなのか。答えは浮かびましたか。みなさんの多くが、命は「かけがえのないもの」と答えたことと思います。「かけがえのない」とは、「それに代わるものが他にない」、「この上なく大切な」という意味です。命は一度失ってしまうと元には戻らず代わりになるものがない、唯一無二の存在なのです。今日は道徳授業地区公開講座が5時間目に実施されます。～生命の尊さ～を主題にした授業を行いますので、ぜひ、命の大切を先生方と一緒に考えて、深めてほしいと思います。

道徳授業地区公開講座

6月29日(月)5校時に、道徳授業地区公開講座を開催しました。この日は「命の大切さをともに考える日」として、全校朝礼にて校長講話を行い、全学年「命の尊さ」を共通テーマで道徳授業を実施しました。各学年の「主題」と「ねらい」は以下の通りです。

学 年	主 題	ねらい
1 学年	「生命の尊さ」 教材「いのちを考える」	他の生命との関係性の側面から、生命の尊さについて考えることを通して、生命の価値について考えを深め、生きとし生けるものの生命を尊重しようとする実践意欲と態度を育てる。
2 学年	「命を大切にすることは」 教材「国境なき医師団・貫戸朋子」	紛争地という極限状態における医師の葛藤と決断に触れ、ロールプレイを通じて「目の前の、助からない可能性が高い命」と「未来に出会うかもしれない、助かる可能性のある命」の狭間で揺れる葛藤を疑似体験する。正解のない極限の選択に向き合うことで、「命を大切にする」ということの本当の重みと難しさについて多面的に考え、生命とは肉体だけではない

		く、その人の「心」も含めた尊いものであることに気づき、日常の言葉や行動において他者を深く尊重する態度を養う。
3学年	「生命の尊さ」 教材「家族の思いと意思 表示カード」	かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。命の大切さについては、自らの命だけでなく、他者の命も尊重されるべきであり、特に連続性や有限性について学ばせることをねらいとした。
太陽学級	「生命の尊さ」 教材「笑顔」と「ありがとう」でつながるいのち	身近な人との「笑顔」や「ありがとう」のやりとりを改めて体感することを通して、自分も相手も大切な存在（いのち）であることに気づき、自分と他者を共に大切にしようとする心情を育てる。

道徳授業地区公開講座につきまして、多くの保護者・地域の皆様にご参観いただきましてありがとうございました。また、第2部の協議会・意見交換会におきまして授業者からの自評を受け、ご参加いただきました地域の方、保護者の方から多くのご意見、ご感想をいただきました。ありがとうございました。さらなる本校の道徳授業の改善に努めていきます。

1年生アンガーマネジメント授業

6月22日（月）、一般社団法人アンガーマネジメントジャパン浅岡 孝俊様を講師にお招きして、アンガーマネジメントの授業をしていただきました。

アンガーマネジメントは、自分の怒り（イライラなど）に上手に対応する方法であり、怒りの感情を抑えたり、がまんする方法ではないとのことでした。今回の授業では、『イライラしたときに心と体を落ち着かせる方法』、『イライラしない考え方にする方法』、『自分の気持ちや考え方の伝え方』などについて学びました。

『イライラしたときに心と体を落ち着かせる方法』では、次の10個の方法を教えていただき、いくつかの方法を実際に体験しました。

- ①10秒呼吸法②肩を上げたり、下げたりする③タイムアウト（その場を離れる）
- ④怒りの温度計でチェック⑤セルフトーク（元気になる言葉を自分にかける）
- ⑥冷たい水を飲む⑦冷たい水で顔を洗う⑧信頼する大人に話をする
- ⑨自分の気持ちをノートに書く⑩好きなことをする。

とても、勉強になり日常生活に活かしたい内容でした。生徒は、真剣に授業に取り組んでいました。この授業を通して、人間関係がより良いものとなってほしいと思います。



太陽学級多摩特研球技大会

6月25日（木）富士森体育館で、第54回多摩特研球技大会が行われました。体育の授業に加え、朝運動の時間もシュート練習をして大会に向けて準備をしました。シュートがなかなか入らなかった1年生も日に日に上達しシュートが入るようになりました。2・3年生は、昨年までの経験を生かして、気合いの入ったプレーで練習をリードしていました。

今大会はBリーグとCリーグに出場し、ともに4試合戦い抜きました。どの試合も良い緊張感の中、練習の成果を発揮しようと集中している様子がよく伝わってきました。全力で走り、あきらめずに何度もシュートする姿に胸が熱くなりました。結果は、Bリーグのチームは2位、Cリーグのチームは3位に入賞し、賞状を手にすることができました！

校長先生から「一人ひとりの輝く瞬間に感動した」との言葉をもらい、みんな達成感にあふれた表情で大会を終えることができました。

